

平成28年度 行政評価の取組結果（上下水道局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施												【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H28年度		H27年度		H28年度		事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	H30年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値（基準値）	H27年度	H28年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数					
II-1-(4)-④ 総合的な災害対策の推進	1	浸水対策事業	下水道計画課	近年、集中的な豪雨に起因する浸水被害が増加している。浸水被害を抑制するため、公共下水道の整備を進め、流域全体の浸水に対する安全度の向上を図る。	浸水被害の抑制	目標	—	—	浸水被害の抑制	3,700,000	3,865,844	3,628,648	165,200	課長	0.80	順調	雨水整備率について、目標どおり達成したため「順調」と判断。（目標71.7%→実績71.7%）	順調	【評価理由】 雨水整備も予定通り進み、浸水被害の抑制に十分寄与していると考えられるため、「順調」とした。 【課題】 浸水対策と合流改善を併せ、一体的に取り組むなど、効率的な整備を行うことが必要。	今後も整備箇所ごとの現場の状況に応じた最も経済的な方法を検討し、整備を行っていく。
						実績	—	—						係長	2.70					
						達成率	—	—						職員	17.20					
II-1-(4)-⑤ 公共施設などの耐震化の推進	2	地震対策事業（水道施設）	計画課	大規模な地震が発生した場合においても、安全で安定的な給水を確保するため水道施設の耐震化を実施するもの。	耐震補強対象施設整備率（旧プラン）	目標	100.0%	—	100.0%（H27年度）	88,300	127,735	595,941	4,610	課長	0.04	順調	平成28年度の目標である水道施設耐震化箇所（1箇所）を予定どおり発注し、耐震補強を進めているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 事業が予定どおり進んでいるため、「順調」とした。 【課題】 耐震診断の結果を踏まえ、最適な工法を検討して発注を行う必要がある。	引き続き、計画どおり耐震化を実施していく。
						実績	100.0%	—						係長	0.10					
						達成率	100.0%	—						職員	0.42					
	3	地震対策事業（下水道施設）	施設課	大規模な地震が発生した場合においても、最低限の下水処理が行えるように下水道施設の耐震化を実施するもの。	下水道施設の耐震化率（ポンプ場、浄化センター水処理施設）	目標	3.1%	5.8%	18.2%（H36年度）	650,000	813,795	510,006	10,690	課長	0.06	順調	ポンプ場耐震化工事（6箇所）が目標どおり進んでいるため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 研修や視察の受入れを積極的に実施しているだけでなく、この協力事業を通じ、開発途上国の技術力向上、本市のPRやイメージアップにも寄与していることから「順調」とした。 【課題】 今後とも関係機関のスキームを利用するなど本市のコスト削減とともに、効率的、効果的な事業実施を図る。	平成27年度に本格運用を開始した日明浄化センター（ビジターセンター）やウォータープラザなどの国際戦略拠点を活用しながら、技術研修や視察などを受入れ、効果的な国際技術協力事業を実施する。
						実績	3.1%	5.8%						係長	0.25					
						達成率	100.0%	100.0%						職員	1.00					
II-3-(4)-② 国際協力・交流の推進	4	上下水道技術の国際協力	海外事業課	アジアを中心とした国や地域（カンボジア、ベトナム国ハイフォン市、ミャンマー国マンダレー市、インドネシアなど）への職員派遣や海外からの研修員受入れなどにより、本市の浄水技術や漏水削減などの技術の移転、下水道の計画づくりや維持管理等に関する指導を行うことで、海外の技術者の育成を進め、世界の水環境改善に貢献する。併せて、国際技術協力を通じ、技術の継承や実務能力の向上など、本市職員の育成にも寄与する。	国際技術協力でアジアの発展に貢献	目標	—	—	発展途上国の技術向上	56,352	24,526	50,889	45,000	課長	0.50	順調	世界各國から研修生を継続的に受け入れ、上下水道技術の向上を図っているため「順調」と判断。（目標280人→実績451人）	順調	【評価理由】 研修や視察の受入れを積極的に実施しているだけでなく、この協力事業を通じ、開発途上国の技術力向上、本市のPRやイメージアップにも寄与していることから「順調」とした。 【課題】 今後とも関係機関のスキームを利用するなど本市のコスト削減とともに、効率的、効果的な事業実施を図る。	平成27年度に本格運用を開始した日明浄化センター（ビジターセンター）やウォータープラザなどの国際戦略拠点を活用しながら、技術研修や視察などを受入れ、効果的な国際技術協力事業を実施する。
						実績	—	—						係長	2.80					
						達成率	—	—						職員	1.50					

平成28年度 行政評価の取組結果（上下水道局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				H28年度		H27年度		人件費（目安）		H28年度				H30年度予算要求に向けた施策の方向性		
					指標名等	現状値（基準値）	H27年度	H28年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価		局施策評価の理由及び課題	
Ⅲ-1-(3)-① 安全でおいしい飲める水道の整備	5	配水管更新事業	計画課	老朽化した配水管を計画的に更新することにより、漏水、赤水、不出水の解消や管破損事故を防止し、安全で安定的な給水を確保する。	安全で安定的な給水の確保	—	目標	—	—	H32年度までに40年以上経過した書綴通・高級錆鉄製の配水管がない状態	4,200,000	4,932,367	5,217,956	296,125	課長	1.00 人	順調	平成28年度目標である配水管更新目標50kmに対し、50.9kmの配水管更新工事を終えているため、「順調」と判断。	【評価理由】 事業が予定どおり進んでいるため「順調」とした。	【課題】 配水管更新事業について、第5期更新計画に基づき、計画どおり更新を実施していく。	
	6	アクアフレッシュ事業（学校の直結式給水の推進）	配水管課	水槽式給水の小中学校等では、近年の児童、生徒数減による使用水量の減少や、休日に水を使用しないことなどにより、貯水槽内に水が滞留し、水のおいしさが低減する状況にある。そこで、上下水道局では市立小中学校等の直結式給水への切替えを推進するため、直結化の支援を行う。	学校直結化率	76.0% (H26年度)	目標	81.0%	82.0% (H32年度)	—	35,000	7,006	14,559	2,950	課長	0.05 人					順調
Ⅲ-1-(3)-③ 快適で良質な生活環境をつくる下水道の整備	7	合流式下水道改善事業	下水道計画課	合流式下水道で整備された地区は、大雨時に雨水で希釈された未処理下水の一部が川や海に流れ出ることがある。 放流先の汚濁負荷を分流式下水道並みに軽減するため、合流式下水道の改善に努め、良好な水環境をつくる。	良好な水環境の実現	—	目標	—	—	合流改善の達成	2,500,000	3,134,892	2,665,980	121,150	課長	0.60 人	順調	合流改善達成率について、目標どおり達成したため「順調」と判断。 (目標47.1%→実績47.1%)	【課題】 浸水対策と合流改善を併せ、一体的に取り組むなど、効率的な整備を行うことが必要。	今後も整備箇所ごとの現場の状況に応じた最も経済的な方法を検討し、整備を行っていく。	
							実績	—	—	—					係長	1.75 人					
							達成率	—	—	—					職員	12.90 人					
Ⅴ-1-(4)-② 再生可能エネルギー・基幹エネルギーの創出拠点の形成	8	小水力発電設備設置事業	浄水課	水道施設における再生可能エネルギーを有効に利用するため、小水力発電の整備推進を図るもの。	再生可能エネルギーの有効利用	—	目標	—	—	再生可能エネルギーの有効利用の推進	212,080	0	0	1,340	課長	0.01 人	順調	既設水力発電設備について平成27年度に更新工事を1箇所起工し、平成28年度に於いては予定どおり水力発電設備機器の製作に取り掛かっているため、「順調」と判断。	【評価理由】 予定どおり、水力発電設備機器の製作に取り掛かっているため、「順調」とした。	【課題】 再生可能エネルギーに関する国の制度が毎年のように変わるので、引き続き、国の制度の動向を見極めながら、既設水力発電の更新を実施する。	引き続き、国の制度の動向を見極めながら、既設水力発電の更新を実施する。
							実績	—	—	—					係長	0.01 人					
							達成率	—	—	—					職員	0.15 人					

平成28年度 行政評価の取組結果（上下水道局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																		
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				H28年度		H27年度		人件費（目安）		H28年度				H30年度予算要求に向けた施策の方向性	
					指標名等	現状値（基準値）	H27年度	H28年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価		局施策評価の理由及び課題
VI-3-(3)-④ 下水汚泥などの循環利用	9	下水道資源の有効利用	施設課	下水汚泥のバイオマスイエネギーとしての燃料化やさまざまな資源の有効利用を行う。	下水汚泥の資源化率	目標	96.0 %	98.0 %	99.0% (H29年度)	1,995,946	1,695,838	1,617,299	127,275	課長	1.00 人	順調	汚泥燃料化施設が年間を通して稼働し、資源化率の目標を達成することが出来たため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 汚泥燃料化施設が年間を通して稼働し、資源化率の目標を達成することが出来たため「順調」とした。 【課題】 燃料化施設の安定稼働に努めると共に、燃料化物供給先のトラブルによる設備停止を回避できるような体制づくりに努める。	引き続き、下水道資源を有効利用していく。
						実績	95.5 %	98.9 %						係長	2.33 人					
						達成率	99.5 %	100.9 %						職員	12.33 人					
10	上下水道技術の国際協力	海外事業課	アジアを中心とした国や地域（カンボジア、ベトナム国ハイフォン市、ミャンマー国マンダレー市、インドネシアなど）への職員派遣や海外からの研修員受入れなどにより、本市の浄水技術や漏水削減などの技術の移転、下水道の計画づくりや維持管理等に関する指導を行うことで、海外の技術者の育成を進め、世界の水環境改善に貢献する。併せて、国際技術協力を通じ、技術の継承や実務能力の向上など、本市職員の育成にも寄与する。	国際技術協力でアジアの発展に貢献	目標	-	-	発展途上国の技術向上	56,352	24,526	50,889	45,000	課長	0.50 人	順調	世界各国から研修生を継続的に受け入れ、上下水道技術の向上を図っているため「順調」と判断。（目標280人→実績451人）	順調	【評価理由】 国際協力事業については、研修や視察の受入れを積極的に実施しているだけでなく、この協力事業を通じ、開発途上国の技術力向上、本市のPRやイメーリアップにも寄与している。 海外水ビジネスについては、引き続き北九州市海外水ビジネス推進協議会を軸にして、カンボジア、ベトナムなどでビジネス案件を順調に受注していることから、「順調」とした。 【課題】 国際協力事業については、今後も国など関係機関のスキームを利用するなど本市のコスト削減とともに、効率的、効果的な事業実施を図る。 海外水ビジネスについては、今後も官民の技術やノウハウを結集し、事業に取り組みを着実に推進する。併せて、水ビジネスの国際拠点を活用した事業展開を推進する。	平成27年度に本格運用を開始した日明浄化センター（ビクターセンター）やウォータープラザなどの国際戦略拠点を活用しながら、技術研修や視察などを受入れ、効果的な国際技術協力事業を実施する。 国際技術協力で培った信頼関係のもと、官民の技術やノウハウを結集し、カンボジア、ベトナム、インドネシア等において海外水ビジネスの具体的な案件形成に向けた取り組みを着実に推進する。併せて、水ビジネスの国際拠点を活用した事業展開を推進する。	
					実績	-	-						係長	2.80 人						
					達成率	-	-						職員	1.50 人						
VII-1-(3)-② 上下水道、消防、交通などの分野における国際協力の推進	11	海外水ビジネスの推進	海外事業課	上下水道分野などの海外水ビジネスは、2025年には約87兆円規模の市場に成長することが見込まれ、国の「日本再興戦略」においてもアジアを中心とした水インフラ分野の海外展開が主要分野に位置づけられている。本市では、平成22年に「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を設立。官民が有する技術力やノウハウを結集し、計画づくりから設計、建設、維持管理、事業運営まで、地場企業による水ビジネス案件の受注を目指して事業を展開。併せて、「ウォータープラザ北九州」を中核施設とした水ビジネスの国際戦略拠点づくりを進める。	上水道に関する水ビジネス案件の受注	目標	-	-	海外水ビジネスを通じた地元企業の振興と国際貢献	110,506	96,342	68,406	83,000	課長	1.50 人	順調	現在カンボジアやベトナムを中心に進めている国際技術協力を通じて築いた信頼関係を土台に、官民一体となり、海外水ビジネス案件や北九州市海外水ビジネス推進協議会会員企業への受注に繋げている。 成果の状況は以下のとおり ・セン・モロノム市水道整備事業（ソフトコンポーネント） ・シェムリアップ水道拡張事業（詳細設計） ・カンボット市水道施設拡張事業（施工監理） ・バタンバン・コンボンチャム（施工監理、ソフトコンポーネント） ・ベトナム地方6都市U-BCF実証実験（中小企業海外展開支援事業） ・カンボジア民営水道事業配水管実施設計照査（技術アドバイザー） 実績として、平成28年度はカンボジア、ベトナムでビジネス案件を6件受注しており、地元企業をはじめとした会員企業の受注も含めて総合的に「順調」と判断。	順調	【評価理由】 国際協力事業については、今後も国など関係機関のスキームを利用するなど本市のコスト削減とともに、効率的、効果的な事業実施を図る。 海外水ビジネスについては、今後も官民の技術やノウハウを結集し、事業に取り組みを着実に推進する。併せて、水ビジネスの国際拠点を活用した事業展開を推進する。	国際技術協力で培った信頼関係のもと、官民の技術やノウハウを結集し、カンボジア、ベトナム、インドネシア等において海外水ビジネスの具体的な案件形成に向けた取り組みを着実に推進する。併せて、水ビジネスの国際拠点を活用した事業展開を推進する。
						実績	22,983 千円	46,100 千円						係長	3.20 人					
						達成率	-	-						職員	4.50 人					
				下水道に関する水ビジネス案件の受注	目標	-	-	海外水ビジネスを通じた地元企業の振興と国際貢献					課長	1.50 人	順調	現在カンボジアやベトナムを中心に進めている国際技術協力を通じて築いた信頼関係を土台に、官民一体となり、海外水ビジネス案件や北九州市海外水ビジネス推進協議会会員企業への受注に繋げている。 成果の状況は以下のとおり ・セン・モロノム市水道整備事業（ソフトコンポーネント） ・シェムリアップ水道拡張事業（詳細設計） ・カンボット市水道施設拡張事業（施工監理） ・バタンバン・コンボンチャム（施工監理、ソフトコンポーネント） ・ベトナム地方6都市U-BCF実証実験（中小企業海外展開支援事業） ・カンボジア民営水道事業配水管実施設計照査（技術アドバイザー） 実績として、平成28年度はカンボジア、ベトナムでビジネス案件を6件受注しており、地元企業をはじめとした会員企業の受注も含めて総合的に「順調」と判断。	順調	【評価理由】 国際協力事業については、今後も国など関係機関のスキームを利用するなど本市のコスト削減とともに、効率的、効果的な事業実施を図る。 海外水ビジネスについては、今後も官民の技術やノウハウを結集し、事業に取り組みを着実に推進する。併せて、水ビジネスの国際拠点を活用した事業展開を推進する。	国際技術協力で培った信頼関係のもと、官民の技術やノウハウを結集し、カンボジア、ベトナム、インドネシア等において海外水ビジネスの具体的な案件形成に向けた取り組みを着実に推進する。併せて、水ビジネスの国際拠点を活用した事業展開を推進する。	
					実績	2,415 千円	0 千円						係長	3.20 人						
					達成率	-	-						職員	4.50 人						

平成28年度 行政評価の取組結果（上下水道局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施																【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				H28年度		H27年度		人件費（目安）			H28年度				H30年度予算要求に向けた施策の方向性	
					指標名等	現状値（基準値）	H27年度	H28年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題		
VII-2-(1)-① アジア低炭素化センターを核とした都市インフラビジネスの推進	12	海外水ビジネスの推進	海外事業課	上下水道分野などの海外水ビジネスは、2025年には約87兆円規模の市場に成長することが見込まれ、国の「日本再興戦略」においてもアジアを中心とした水インフラ分野の海外展開が主要分野に位置づけられている。本市では、平成22年に「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を設立。官民が有する技術力やノウハウを結集し、計画づくりから設計、建設、維持管理、事業運営まで、地場企業による水ビジネス案件の受注を目指して事業を展開。併せて、「ウォータープラザ北九州」を中核施設とした水ビジネスの国際戦略拠点づくりを進める。	上水道に関する水ビジネス案件の受注	目標	—	—	海外水ビジネスを通じた地元企業の振興と国際貢献	110,506	96,342	68,406	83,000	課長	1.50	人	順調	現在カンボジアやベトナムを中心に進めている国際技術協力を通して築いた信頼関係を土台に、官民一体となり、海外水ビジネス案件や北九州市海外水ビジネス推進協議会会員企業への受注に繋げている。 成果の状況は以下のとおり ・セン・モロノム市水道整備事業（ソフトコンポーネント） ・シェリアアップ水道拡張事業（詳細設計） ・カンボット市水道施設拡張事業（施工監理） ・パタンバン・コンボンチャム（施工監理、ソフトコンポーネント） ・ベトナム地方6都市U-BCF実証実験（中小企業海外展開支援事業） ・カンボジア民営水道事業配水管実施設計照査（技術アドバイザー） 実績として、平成28年度はカンボジア、ベトナムでビジネス案件を6件受注しており、地元企業をはじめとした会員企業の受注も含めて総合的に「順調」と判断。	順調	【評価理由】 引き続き北九州市海外水ビジネス推進協議会を軸にして、カンボジア、ベトナムなどでビジネス案件を順調に受注していることから、「順調」とした。 【課題】 今後も官民の技術やノウハウを結集し、事業に取り組むことで地元経済の活性化を図る。	国際技術協力で培った信頼関係のもと、官民の技術やノウハウを結集し、カンボジア、ベトナム、インドネシア等において海外水ビジネスの具体的な案件形成に向けた取り組みを着実に推進する。併せて、水ビジネスの国際拠点を活用した事業展開を推進する。
						実績	22,983	46,100													
					達成率	—	—														
					目標	—	—														
				下水道に関するビジネス案件の受注	実績	2,415	0	海外水ビジネスを通じた地元企業の振興と国際貢献					係長	3.20	人						
			達成率		—	—											職員	4.50	人		